

(第2号様式)

平成28年3月31日

神奈川県教育委員会教育長 殿

県立 伊勢原高等学校長

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<教育課程> 体験活動など多様な学習機会を提供するとともに、地域教育機関と連携し、生徒の学力を育成する。	(1)学習の到達目標を明確にし、学力スタンダードに基づく授業を展開する。また、その達成状況をスタディサポート、定期試験、職員アンケート等の結果によって検証し、引き続き授業改善の取り組みを進める。 (2)小中学校との連携、地域の人材・施設等の活用により、生徒の学力向上に努める。	(1)学力スタンダードに基づく授業が展開できたか。 (2)小中学校との連携を行うことができたか。また、地域の人材・施設等を活用した学習の場を設定することができたか。	○伊勢原高等学校学力スタンダード「i Standard」を作成し、全生徒に配付した。 ○4月より学力スタンダードに基づいた授業を展開し、研究授業、授業公開に活用した。 ○生徒が自ら活用する方法を考え、自宅学習を促した。 ○7/22 公開講座「大山豆腐づくり」実施 ○11/6 大山ウォークを実施し、大山阿夫利神社下社での大山の歴史を学んだ。(1年生全員対象)	○具体的規準を年度ごとに各教科で検討し、学力スタンダードの内容をより改善する。 ○生徒が自ら学力スタンダードを活用できるように、生徒目線の内容にし、冊子の構成を工夫する。 ○生徒参加型の展開を、多くの時間で取り入れるようにする。	(保護者) ○大山豆腐などの体験学習はこれからも続けてほしい。 (学校評議員) ○学力スタンダードを全生徒に配付しているのがよい。	(学校評価) ○「学力スタンダード」の活用方法を工夫し、来年度に向けて振り返りを行う必要がある。 ○大山豆腐づくりなどを通して、地域に根ざした学習を行うことができた。 (改善方策等) ○「学力スタンダード」の内容をさらに見直し、授業改善に生かす。

<p><生徒指導・支援> 生徒一人ひとりに応じた相談体制を充実させ、安心して学べる学校づくりを進め、規範意識の高い生徒の育成を図る。</p>	<p>(1)保護者との連携を深め、再登校指導や交通安全指導の中で、あいさつ・声掛け等を継続的に行い、生徒が他者と積極的にかかわれるように指導するとともに、自ら学校の規則や交通ルールを守る態度を育成する。</p> <p>(2)学校生活アンケート等により生徒の状況や生徒・保護者の要望を把握し、学年や教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーや特別支援学校等の外部機関と連携を図り、必要に応じて教育相談やケース会議を実施し、安心して学校生活を送れる環境づくりに取り組む。</p>	<p>(1)継続指導の結果、遅刻をする生徒は減少したか。又、交通事故発生件数が減少したか。 (生徒アンケート集計、生徒指導件数・遅刻数の推移、交通事故件数の集計比較)</p> <p>(2)各担当間での連携を密にすることにより教育相談やケース会議を充実できたか。 (ケース会議の評価や教職員・生徒アンケート)</p>	<p>1)各統計の平成27年度の状況 (平成26年度との比較)</p> <p>○遅刻数 1年:1044人→756人(-28.8%) 2年:2647人→1622人(-38.7%) 3年:3835人→4013人(+4.6%) 全校:7526人→6391人(-15.1%)</p> <p>○特別指導件数(-61.5%)</p> <p>○交通事故件数 6件→4件(-33.3%)</p> <p>○生徒アンケート結果 約90%の生徒が「学校が楽しい」「友人と一緒にいて楽しい」と答えており、教育活動や人間関係が概ね良好であると考えられる。 また、勉強や部活動、友人関係等で悩んでいる生徒もいるが、約90%が「相談できる友達がいる」と回答している。 なお、「相談したいことがある」と申し出た生徒も数名いたが、すべて対応済みである。</p> <p>(2)教育相談・ケース会議 ○伊勢原養護学校との連携事業を2回実施し、指導・支援が難しい6名の生徒について、専門的な見地からアドバイスを受け実践している。</p> <p>○スクールカウンセラー拠点校となったことで教育相談設定回数が増加し、それに伴い実際の相談件数も増加した。 36件/11日→114件/32日 (1日当たり件数+8.9%)</p>	<p>○各統計の数値は平成26年度に比べ改善しており、「自ら学校の規則や交通ルールを守る態度」が定着しつつあると考えられるが、今後も指導・支援を継続することで、この傾向を3学期も維持していく。</p> <p>○引き続ききめ細かな生徒・保護者対応に取り組み、安心して学校生活を送れる環境づくりを進める。</p>	<p>(保護者) ○規則正しく厳しく指導していただき、助かる。 (学校評議員) ○教育相談に来る子どもに対してのフォローを、さらにお願したい。</p>	<p>(学校評価) ○交通事故をなくすために交通ルールの遵守等の指導をこれからも行う。 ○再登校指導をはじめ、服装や髪型指導を徹底していく。 ○教育相談に来る生徒に対応できる組織づくりを強化する。 (改善方策等) ○保護者や地域の協力を強化し、指導を通して規範意識の向上に取り組む。</p>
--	---	---	--	--	---	---

<p><学習指導・授業改善> (1)生徒の学習意欲を向上させ、基礎学力の定着とともに発展的な学習等の機会を提供することにより生徒の学力を高める。 (2)各教科の指導、特別活動において生徒に思考力・判断力・表現力を育む取組を充実させる。</p>	<p>(1)基礎学力の定着や発展的学習の育成に向けて放課後や長期休業中に進学講習・補習を実施する。</p> <p>(2)①教員相互の授業見学、研究授業、小中学校との連携、生徒による授業評価、学校評価アンケートの結果、学力スタンダード等を踏まえ、コミュニケーション能力を育む授業形態・授業内容について組織的な授業改善を進める。 ②各教科のワークシートや試験問題に思考力・判断力・表現力を育む内容を加える。</p>	<p>(1)キャリア支援グループが進学講習を企画・運営し、生徒の学習意欲を維持・向上させることができたか。</p> <p>(2)①授業改善の結果、生徒の興味・関心が高まり、コミュニケーション能力や学力向上の成果が得られたか。 ②各教科・科目で、思考力・判断力・表現力を育む指導が行えたか。(教科で集約)</p>	<p>○毎週、火・水・木曜日に進学講習(2・3年生)及び特別講習(1年生)を実施した。また、夏季休業中にも1週間の講習を実施した。進学講習は選択制、特別講習は希望制としたことにより、モチベーションを保ちながら実施できた。</p> <p>○6/19 2学年と対象とした研究授業を実施し、研究協議と全体研修会を行い、授業改善が進められるようにした。</p> <p>○7/13 生徒による授業評価を実施し、教科ごとに結果の分析と検証を行った。</p> <p>○10/30 1学年を対象とした研究授業を行い、研究協議の初めに生徒による感想を取り入れ、授業改善がさらに進められるようにした。</p> <p>○1,2年生のHR、授業で多展開によるメリットを生かしたきめ細かい指導を行った。</p>	<p>○進学講習、特別講習の成果を検証するため、アンケートを実施するなど、生徒の声を集約する。また、実施時間帯については、学校行事等と調整しながら設定していく。</p> <p>○今後、思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション能力を育む指導についてどのような取り組みができたか、各教科で集約し、学力向上に向けた授業改善を行う。</p>	<p>(保護者) ○学年懇談会に出席して行きたい。 (学校評議員) ○授業力が向上しており、生徒が意欲的になっている。 ○中学生も伊勢原高校に行きたい生徒が多くなり、その保護者にも人気がある。</p>	<p>(学校評価) ○講習は予定通り実施できた。よりよい学習活動ができるように工夫する。 ○研究授業を行うことで中学校との連携が強化できた。 (改善方策等) ○進学講習に参加する生徒の学力向上に適した形を検討する。</p>
---	--	--	--	--	--	---

<p><キャリア教育> (1)将来有用な人材を育てるため入学から卒業までのキャリア教育の体系化を図り、生徒の積極的な取組を支援する。</p> <p>(2) 学校行事・部活動・ボランティア活動等において生徒の自主的・主体的な活動を推進する。</p>	<p>(1)①キャリアアドバイザーを活用し、インターンシップや上級学校訪問等を体験させることで、自らの課題を発見できるように指導する。 ②各種説明会や進路指導室の有効的な活用等をおして、個々の進路指導の充実を図り、進路決定率95%以上を目指す。 ③職員対象の進路研修会を通じて、職員のスキルアップを図り、生徒に対する指導力を向上する。</p> <p>(2)①体育祭や文化祭等において、生徒の自主的・主体的な活動を進める。 ②生徒に魅力ある部活動・同好会活動になるよう支援する。 ③ボランティア活動等の受け入れ先の拡大やボランティア委員会をさらに活用し、生徒への告知を工夫することにより、自主的、主体的に生徒が活動に取り組めるような環境を充実させる。</p>	<p>(1)①②の取組みにより、生徒が積極的にインターンシップや上級学校訪問に参加し、自らの課題を発見し、進路実現に向けて行動がおこせたか。(生徒アンケート・進路決定率) ③生徒に対して有効な指導をおこなえたか。(生徒アンケート・進路決定率)</p> <p>(2)①②③の取組みにより、行事、部活動、ボランティア活動等に積極的に参加する生徒が増えたか。(部活登録者数の変化、生徒アンケート)</p>	<p>○キャリアアドバイザーの配置校として積極的にインターンシップを実施し、34名の参加生徒にとって、有意義な体験となった。 ○進路指導室を定期的に開放し、昼休みや放課後において資料閲覧や相談等で活用できた。(三者面談でも使用) ○3学年において、看護系、保育系、就職等の分野別指導を進め、面接対策や書類作成で成果が得られた。 ○2年次から外部講師による就職指導を実施した。(少数ながら1年生も参加した。) ○1年次から上級学校見学を推進し、進路実現に向けた早めの取り組み、意識付けを行うことができた。 ○総合的な学習の時間において各学年でキャリアプログラムを実施した。大学・短大・専門学校の講師による分野別説明会を校内で行い、進路選択に役立てた。</p> <p>(2)加入率は2.6ポイントの微増であった。加入者数は生徒数の減少もあり64名の減であった。ボランティア活動には今までに延べ80名程度の生徒の参加があった。</p>	<p>○現在の進路指導計画を見直し、3年間を見通した新たな進路指導計画(マニュアル)を作成し、生徒の進路希望実現を支援していく。 ○進路指導室の活用について、1・2年生の利用を促進する方策を検討する。クラス単位の活用や希望分野別の小集団での指導等を行っていく。進路指導室の整備も継続して行う。 ○職員の研修会を継続して実施し、指導力の向上を図る。 ○業者の処理システムや実力テストを活用し、生徒の学力向上に向けた意識付けを行う。</p> <p>○1年間を通じて加入率を維持できるようにしたい。 ○一つの部活が続けられなくてもほかの部活に再入部して活動を続けられるようにする。</p>	<p>(保護者) ○スポーツ大会は運動が苦手な子どもには厳しいようだ。 (学校評議員) ○ボランティア活動等で地域の活動に参加してもらえるのがありがたい。</p>	<p>(学校評価) ○インターンシップによる職業体験で進路の参考とすることができた。 ○総合的な学習の時間を利用し、生徒向けの進路分野別説明会等を実施して進路実現の参考とした。 (改善方策等) ○様々なグループで連携し、キャリア教育の充実を図る。</p>
<p><地域等連携> 家庭や地域の教育力を活用し、地域とともにある開かれた学校づくりを進める。</p>	<p>(1)グループ・学年・教科との連携を密にし、地域の方々の協力を得て、公開講座や地域貢献活動・ボランティア活動等を実施する。</p> <p>(2)学校説明会やオープンスクール、またHPの内容等の充実を図ることにより学校の情報を広く地域に提供し、開かれた学校づくりに取り組む。(参加した中学生や保護者の要望等をアンケートで把握し、弾力的な企画・運営を行う)</p>	<p>(1)地域の方々と協働・連携をすることにより、充実した事業の展開ができたか。(連携の状況に基づいた担当者による評価・参加者アンケート) (2)HPなどによる学校の情報提供により、中学生や保護者、地域の方々の本校に対する理解が深まったか。(参加者アンケート、HP更新数の変化)</p>	<p>○大山豆腐づくりなど地域の方と連携した活動をとることができた。 ○学校説明会には約500名(昨年度より50名増)の参加があった。 ○HPの更新を行事等ごとに行った。</p>	<p>○公開講座などは、地域の方の参加をさらに増やすように広報する。 ○地域と連携した活動を通して、生徒の自己肯定感や達成感を高める取組を充実させた。 ○HP更新回数を増やすことによって、多くの情報を発信することができた。さらに見やすくなりやすいHPづくりに努める。</p>	<p>(保護者) ○地域の活動が多く、子どものためになってよかったと思う。 ○見てわかりやすい楽しいと思うホームページ作りをお願いしたい。</p>	<p>(学校評価) ○地域の方々と接することでボランティア活動との意識が向上した。 ○学校説明会の内容を工夫したことで来場者数の増加となった。 (改善方策等) ○ホームページの充実と学校説明会の時期や方法を工夫し、さらに多くの方に情報を発信する。</p>

<p><学校運営・学校管理> (1) 教職員の意識向上を図り、事故・不祥事の防止を徹底する。 (2) 地域と連携し、校内の防災対策や災害時の体制整備を一層強化し、生徒の防災意識を高める</p>	<p>(1) 毎朝実施する職員による「事故防止の一言」や、定期的な事故防止会議により、職員の意識を喚起する。 (2) ① 実情に合った防災マニュアルに更新し、防災備品を整備・維持管理することで災害に備える。 ② できる限り多くの教科で防災に関する内容を扱うことで防災の知識を増やし、防災意識を高める。 ③ 自治会などの地域諸団体と連携して、地域や自治体と協働した防災訓練を策定・実施する。 ④ DIG等の活動を通して、生徒の「主体的に行動する態度」を育む活動を実施する。</p>	<p>(1) 事故防止会議を定期的実施し、事故・不祥事の防止を喚起できたか。(教職員アンケート) (2) ① 防災マニュアルの更新により、計画的に防災用品を整備できたか。(防災用品の整備状況) ② 複数の教科で防災に関する授業を行ったか。授業後、防災の知識が増えたか、また、防災意識が高まったか。 ③ 自治会に学校の防災計画を周知し、自治会等と連携した防災訓練ができたか。(教職員・生徒・参加者アンケート) ④ 生徒自らが「主体的に行動する態度」を育む活動を実施できたか。 また、防災意識が高まったか。</p>	<p>○ 随時、啓発資料を配付して職員の事故防止の意識の喚起に努めている。また、職員による「事故防止の一言」を継続し、職員の事故防止に対する意識喚起に努めた。 ○ ① 簡易防災マニュアルの整備を進めた。また、卒業生からの記念品として防災倉庫を増設するなどした。 ② 化学、物理、英語、音楽、家庭、保健体育などで防災に関する授業を行った。 ③ 6月29日(月)に本校会議室で避難所運営会議を伊勢原市の主催で行い、地域の自治会などとの連絡の会議を実施した。 ④ 3月にDIGを実施した。</p>	<p>○ 今後とも、「事故防止の一言」など継続し、職員の事故防止の意識の喚起に努める。 ○ ① さらに、防災倉庫及び防災用品の整備を進めていく。 ② ④ 3年間の教育力向上事業(防災教育)は終了となるが、様々な機会をとらえ、生徒の防災意識の向上に努めたい。 ③ 今後も、自治会との防災避難訓練を継続実施するなどして地域と協力した防災対策に努める。</p>	<p>(保護者) ○ 生徒には防災訓練には真剣に取り組んでもらいたい。 (学校評議員) ○ 地域と連携した防災訓練を多く実施するとよい。</p>	<p>(学校評価) ○ 毎朝の「事故防止の一言」により、職員の意識向上と注意喚起を図っている。 ○ 防災に関する授業やDIG等により、生徒に主体的な防災対策を考えさせた。 (改善方策等) ○ 防災訓練等を通じて、生徒がすぐに対応できる体制を整える。</p>
--	---	--	---	--	---	--